HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	座談会「アイヌ民族の社会的課題および文化継承について ： 四人のアイヌの人々と」
Author(s)	萱野, 志朗; 葛野, 次雄; 八重樫, 志仁 他
Relation	多文化世界におけるアイデンティティと文化的アイコン ： 民族・言語・国民を中心に Identity and Cultural Icons in a Multicultural World : Ethnicity, language, nation
Issue Date	2020-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77220
Type	other
File Information	10.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

座談会

「アイヌ民族の社会的課題および文化継承に関して
―四人のアイヌの人々と―」

参加者：萱野志朗、葛野次雄、八重樫志仁、
秋辺日出男、ジェフ・ゲーマン

「研究」の意義

ジェフ：皆さんおはようございます。多元の研究会に還元するため、今日は私たちが集まり、行った座談会を録音書き起こしし、それを４人からの研究プロジェクト報告書への貢献にしようとしています。

萱野：学者には学者としての使命がある。研究成果を社会に還元しないといけない、と思う。例えば「北海道における先住民族の「知」の接合に関するアクションリサーチ研究」報告書（２０１７年３月31日）を関係者のみに配って、その内容について他の人たちは誰も知らないという状態であれば、我々研究チームの自己満足でしかない、と思う。

八重樫：我々は難しい言葉を言われたら分からない。そういう人たちはいっぱいいるわけ。言いたくて言えない人たち。うちらの奥にもっともっといっぱいアイヌいるんだよね。萱野さんもそうだけど、次雄さんもそうだけど、そういう人たちのためになってほしいと思う。

萱野：我々研究チームである一員のアイヌたちに原稿を書かせないのも失礼だ。アイヌ民族には書く力、能力が備わっていないというジェフ先生の考え方はいかがかと思う。以前に作った、我々の報告書は良い出来だった、と思う。ジェフ先生は本当にこの活動に意義を見出すのならば、自費出版ででも出して良いと思う。以前、他のメンバーとも話したことがあるが、我々アイヌ数名がジェフ先生の研究プロジェクトへ参加することによって、ジェフ先生のアイヌ民族に関する研究目的は正当化される。研究成果を通じて、アイヌ民族に研究成果を還元する研究者であって欲しい。

ジェフ：分かりました。今まで以上に一生懸命頑張ります。

自己紹介

ジェフ：次に、皆さんの簡単な自己紹介に進みたいと思います。

萱野：私は１９８８年１月15日から１９９２年３月まで平取アイヌ語教室の事務局員、事務局員から５年後の１９９２年４月に事務局長となり、現在もこの肩書きで活動している。ですからアイヌ語の復興にずっと携わっている。１９９２年３月に「萱野茂アイヌ記念館」（後に「萱野茂二風谷アイヌ資料館」と改称）という私立の資料館が再スタート。それまでは町立の「二風谷アイヌ文化資料館」という施設だったのだが、その町立の施設が「平取町立二風谷アイヌ文化博物館」という新しい建物がダム湖の近くに出来て、そこへ資料館の資料がすべて移されて、古い建物を再利用し萱野茂個人所有の「萱野茂アイヌ記念館」としてスタートした。この館の副館長をやりながらアイヌ語教室の事務局長をずっと務めていて、父・萱

野茂が亡くなる前の２００６年４月１日付で副館長から館長となり、館長交代から１か月後の５月６日に父・萱野茂は亡くなった。現在は館長という仕事をしながら、２０１９（令和元）年の５月１日から平取町議会議員になった。町議会で議席を得た事によって、地元である町議会の内容を知ることが出来、且つ議員活動もしている。２０１９年５月24日に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（略称：アイヌ施策推進法）が施行され、全国の自治体が地域計画を内閣府に提出し、総理大臣の認定を受け、当該事業の８割分が交付金として交付される。１割分は地方財政措置があることから、各自治体は、全事業費の１割負担で事業を遂行することが出来る制度だ。この法律を、私は平取町議会議員という立場で議会の状況を見ていると全国の自治体がうまく金を引っ張れるシステムだと思う。当然、道内の市町村自治体では、平取町、釧路市、新ひだか町、白老町などが計画書を提出し認定を受け交付金を受ける。アイヌに関する政策を積極的にやっている自治体は、交付金というお金を国から引っ張れるが、アイヌに関する政策について消極的な自治体は国から交付金を一円も得られないため、地域格差が起こっている。当該自治体にアイヌが居住しているにも拘らず、アイヌを取り巻く問題に理解が低い自治体は、この交付金に関する地域計画を策定せず国へ申請しないという状況である。したがって、各自治体のアイヌに関する理解の高低が、地域計画を策定するか否かの分かれめで、北海道内での地域格差がどんどん大きくなっていくような気がする。私は、２００６（平成18）年10月に萱野観光株式会社という会社を設立し代表取締役社長でもある。この会社には、10年間で7軒のチセ（アイヌの伝統的家屋）建ての依頼があり、萱野観光株式会社が請負人となり、この仕事に協力してくれる方に下請けとしてお願いする。例えば、3間×4間の12坪くらいのチセでも、1千万円弱かかる。

ジェフ：僕一時期平取町に土地を持っていて・・・家を安く建てようと思ったら kuca cise[i]を立てればいいべさと言われたけど、そんな一千万もかかるとは。

萱野：チセ（伝統的な家屋）の建設費は、近代的な建物を建てるぐらいかかる。直径15～20センチの柱が24本、梁も直径25センチ以上のものが8本くらい必要で、屋根材の骨組み用や垂木に相当する木材（丸い状態）など、さらに屋根や壁を葺くカヤの値段も高騰している。

ジェフ：分かりました。ありがとうございます・・・

デボ：俺は阿寒湖温泉で１９６０年生まれたんだ。以来阿寒湖アイヌコタンで育ったさ。

ガキの頃からアイヌコタンは観光地だからさ、朝から晩までアイヌの木彫り、アイヌのペンダント、木彫り熊、アイヌ踊り、歌、メノコ[ii]だアイヌだと洪水のようにアイヌに囲まれてた。小学生中学とたくさんの友達と差別いじめに囲まれて育った。いじけてたし嫌な奴になってた。でも中学卒業寸前の二月かな？！親父やコタンの連中

---

[i] 仮家

[ii] アイヌの女性

がユーカラ劇といってユーカラを題材に舞台をやってさ、共演者には釧路の有名な日本舞踊の大御所とかいたさ。これがやたらと凄くてプロか？と思ったよ、そこで演じられてた舞台がキラキラしていてアイヌはすごい文化を持っていることがよく分かったんだよ！それまで俺の中のアイヌ像はノンベエでだらしなくて喧嘩ばかりしている恥ずかしい存在でしかなかったんだけど、１８０度価値観が変わったね！中学卒業したらすぐに阿寒湖から逃れて東京さ行こうと思っていたんだけどやめて地元の高校へ進学した。だってそれからは和人差別して仕返しできると思ってたからさ。その通りしていたと思う。でも転機が来た。阿寒高等学校卒業の18歳の秋、カナダインディアンとの交流に参加し、先住民族の問題は地球規模であることを教えられたんだ。自分が恥ずかしかった。以来アイヌ民族文化の継承発展を目指し、ユーカラ劇、「香港アジア芸術祭」「関西公演」主演、２０００年「ブラジル・リト・デ・パセージ民族交流公演」参加、２００４年より組合ユーカラ劇演出担当といろいろやったさ。アイヌ詞曲舞踊団モシリは特に勉強になった。して２００８年第一回世界先住民族サミット役員として参加、大成功の内、日本政府への提言、二風谷宣言を発表してさ、ついでに２０１０年愛知COP10へ提言するため「せかい里フェスティバル　第二回世界先住民族サミット」開催、宣言発表したりもした、志朗ちゃんたちと一緒にな！あれは良かった。２０１２年稼働のアイヌシアター！古式舞踊等演出。２０１５年芥川賞作家、新井満氏と楽曲「イランカラプテ～君に会えてよかった」を発表。その後北海道によるイランカラプテキャンペーンにテーマ曲に採用された！ついてたな。２０１８年シェイクスピア作を「アイヌオセロ」として演出、２０１９年８月ロンドンで発表。評判をとったってな(笑)、まっ！いろいろやってきたさ。

八重樫：僕ですか？僕はサマニウンクル[ii]とサルウンクルのハーフで、僕自身は浦河で生まれ育ったんでウラカウンクルです。以上。(笑)。

萱野：そのほか色々とアイヌ文化活動をしている団体を主宰していますよね。

ジェフ：最近の発言でいろいろと八重樫さんの洞察のもととなっているのは、やっている仕事も関わってくると思われるし。後は最近立ち上げた団体。

萱野：そう。

八重樫：さっきのジェフのアイデンティティーという話を言えば、僕はそのアイヌという一つの民族がいるんではなくて、川筋ごとにその文化圏があって多部族の集合体としてその対外的にアイヌ民族と言っているだけで。個々は別々なその民族の集合体だと思っているんですよね。で、アイデンティティーという話をしてたんですけど、昨日の、あの、飲み会のときにもちらっと言ってたんですけど、旧土人保護法というのがあって、まずそこで本当にしっかりがっちりお金を入れて保護して、アイヌが豊かになっていたのなら、もしかしたら同化政策は成功していたかもしれない。でも結局保護法と

[ii] ウンクルは「の人」という意。様似ウンクルは様似出身の人、サルウンクルは沙流川流域の人を指している。

いうのは名ばかりでアイヌの生活は全然楽にならなかったから戦後ウタリ福祉対策というのが出来て。で、こっちの方がある程度成功したんだと思う。で、今のアイヌは戦前ほど貧乏で苦しい差別もキツイ状況には、ま、現在無くなってきているから、今の方がアイヌとしてのアイデンティティーは危機的な状況にあると思うんですね。

ジェフ：まず・・・返すようで申し訳ないんですけど突っ込んだ話は後でしたいんですけど・・・

八重樫：自己紹介としてはサマニウンクルとサルウンクルのハーフで、ウラカウンクルです。僕はそれだけでいいです。

ジェフ：分かりました・・・

葛野：俺はね、（あの静内アイヌ協会から）ＮＰＯ法人新ひだかアイヌ協会から脱退を求められて、除名を求められてやむなくやめて、静内アイヌ協会というのを作りました。で、当初63名の会員が先だって集めてみると１１０名になりました。

萱野：すごい数ですね。

葛野：ま、これ、一会員だからさ。アイヌ協会でやっているのは一家族会員だから、だと思う。でも、ま、その数は数ではなくて、なにか別の団体を作るということに共感されて協賛してくれる人がいた、ということ。

萱野：すごい。

葛野：それで45秒なりました。

萱野：「静内アイヌ協会　会長」。

近年のアイヌ民族の背景について

ジェフ：さて、多元プロジェクトの研究会に来ていなかった方、或いは、アイヌ民族の最近の情勢に詳しくない方は、この記録を読んでなんのことか分からないと思いますので、少し、今までの研究会で取り上げられた課題について触れてみたいと思います。先ほど萱野さんはアイヌ施策推進法についてふれたんですが、その法律が今年の5月24日に施行されて、いろんな意味で現在はアイヌ民族にとっての過渡期であると言えます。また、その法律の制定に至るプロセスにおいて、アイヌ社会が抱えている問題やアイヌ運動の課題も見えてきたと思います。

　現在まで、この研究会で、２０１９年3月までの制度の問題について議論し合ってきたが、その振り返りから始めたいと思います。アイヌの四人一斉に：それは問題が有りすぎて、何から話せば良いというんですか？！

ジェフ：すいません、それはそうですね。質問が大雑把過ぎて。ま、例えば、一つにアイヌの助成金制度があがっていたように覚えています・・・

葛野：昭和21年にアイヌ協会が出来て、その当時に33億のお金を引っ張ってきたような気がするな。それから現在の70何年間横に引いてみたらやく１５０？15億かの金が国から降りてきて、今年まではどんどん減らされて、またその中でどれほどがアイヌの手に入ってきたか。「アイヌ対策」に使われているお金の中はほとんどが町のシャモの業者のところへ行って。おそらくアイヌはこの北海道におい

てさ、踏み台にされているって。

助成金のためにアイヌになるのか、アイヌ民族だから助成金をもらうのか

八重樫：２０１８年の２月にここ［北海道大学メディア・コミュニケーション研究院］で開かれたシンポジウムで言ったことがあるが、アイヌが土人だった時代、自由に山に入って木を切ったり、シカを獲ったり、鮭を獲ったりして暮らしていた。しかし平民になった途端山で木を切ることを禁止され、シカを獲ることを禁止され、鮭を獲ることを禁止された。生活の糧を奪われたアイヌは、たちまち困窮していく。法律を作らなければならないほどに。ちょっと収入が減ったくらいでは、法律までは作らないだろう。教科書に載っていないのでわからないが、餓死者が出たんだと思う。それも、一人や二人ではないだろう。そこで明治20年代、旧土人保護法という法律が作られる。しかし保護とは名ばかりで、アイヌの窮状はまったく改善していかなかった。そのため昭和30年代後半、ウタリ福祉対策が始まる。ウタリとは、新平民のことである。新平民が貧乏で困っているので、福祉対策を施してあげようという政策である。当時、日本国政府はアイヌを、民族と認めていない。したがってウタリ福祉対策は、あくまで貧乏人対策である。その結果、福祉対策の受け皿として発足した戦後のアイヌ協会は、低学歴低所得の集団となっていく。その弊害が、今に表れている。

本来民族とは、高学歴の人がいて、低学歴の人がいる。高所得の人がいて、低所得の人がいる。学者や弁護士、医者といった知識層がいて、単純労務者がいる。多様な人が民族を構成しているはずだが、アイヌ協会に限って言えば、極めて限られた層で構成されている。アイヌ協会員イコール、アイヌ民族ではない。しかしほぼ、イコールと言っても差し支えないと思っている。なぜなら確かにアイヌ協会員ではなくても民族意識を強く持っている人はいるし、その中には民族活動している人はいる。しかしそれはごくごく少数で、何もしていない人が大半だ。アイヌ協会員ですら何もしていない人が大半なのに、非協会員ではもっと顕著である。彼らの多くは、アイヌが嫌いなアイヌだ。和人に同化したい、アイヌを否定したい人たちだ。

現在最も多く利用されているウタリ福祉対策は、修学資金である。アイヌ協会は、アイヌ民族最大の団体である。その団体の入会時期は、子供が高校等に進学した時期に集中する。つまり入会動機は、修学資金の受給である。

このウタリ福祉対策が、民族意識の低下を招いていると考えられる。つまり新入会員は修学資金の受給が目的で、アイヌ協会活動とか、民族のありようとか、民族文化には関心を持たない。そして子供が学校を卒業するなどして利用できる制度、受給できるお金が無くなると退会していく。

このお金がもらえるからアイヌ協会に入会するという動機を、アイヌ民族だからアイヌ協会に入会するという動機に変えていかなければならない。そうしなければ、民族意識の低下を防ぐことはでき

ないと思う。

ジェフ：なるほど。ここに集まっている四人のように、活動をしている人がごく少数で、その他の大半の人はアイヌが嫌いなアイヌだ。和人に同化したい、アイヌを否定したい人たちなんだ。それはどういうことでしょうか。

今なお残る差別の現実

八重樫：現在40代以上の人は子供時代厳しい差別を受けた世代だ。彼らは、アイヌが嫌で嫌でしょうがない。

葛野：俺はアイヌ人という思いはあったんだけど、22－3のころにこういうA4の紙でね「あなたは○○○人だから付き合いません」というシャモ女の子から、落ちてきた、二階から。でこうやって見たら「あなた○○○人」って、その「○○○人」の中に「アイヌ」っていう言葉が入るということ。俺 pakehe[iv]悪いもんだから分からんだよ。「あなたは○○○人だから付き合いません」っていうその言葉が分からなくて、姉さんに聞いてさ、「姉ちゃんこれ何だ、これ書いてある？」「馬鹿者め！ここおめえーアイヌだから付き合えないって書いてある。」ええ!?って。アイヌとシャモとね、付き合っちゃならぬかと思ってね。初めてそこでそれ聞かされて。いや、もう、大変な思いをした。22－3のころに。22－3なんてそのたまたま。親に聞けん。たまたま姉ちゃんが言ってくれたから。あ、そうなんだ。

[iv] 頭

だけど、理解は全然できなかった。アイヌっということとアイヌとシャモが付き合う。それから、ま、もうシャモ見たら石をぶつけてやるからという思いでいっぱいでね。いまだにそういう性格は治らない。石はぶつけてはいないけども大変な思いをした（笑）。

アイヌ不在の現実

八重樫：それに、北海道の田舎ではわずか数年前まで先住民族の存在は消されていました。どうしてもアイヌの影響力を薄めたい現象が起きている。浦河町政百年記念の DVD の中でカムイノミが行われているシーンがチラッと出ていますが、説明もアイヌの名前も何もなく、伝統儀式という説明になっています。アイヌのことが分からない人は日本の伝統儀式だと思ってしまいます。それにアイヌ語地名はだんだん和名に変わっていること。

継承者不足

葛野：子どもの頃、うちの集落に３００名のアイヌとシャモがいたような気がする。今はアイヌと称される3家しかいないね。

八重樫：僕の時代は、アイヌアイヌとバカにされ、指さされ、差別されてきたから、自分をアイヌだと自覚する事が出来た部分があります。それは、否定しようもない事実です。だからといって、子供達も、アイヌアイヌと差別された方がいい、などとは思いません。差別を受けてきた僕ら世代は、子供たちにアイヌだと教えていない人が多いだろう、と考えます。つらい体験をしてきた親が、自分の

子供に、アイヌだと胸を張って告げる事が出来たら、そういう社会を作るためには、どうしていったらいいんだろう、と考えます。実際、アイヌプリ[ヘ]のア の字も教わる事が出来なかったアイヌは、どうしたらいいんだろう。親が教えない、周りも教えない、文化的体験をすることなく育ったアイヌは、自身をアイヌだと自覚することなく、成長するのでしょう。そういうアイヌは、ただ同化していくだけだとして、突き放してしまって、本当にいいのでしょうか。

ジェフ：そうですね。そのような背景で、今年までの法律はどれほど役に立ったか、ということなんですね。

民族法ではなく、文化法、福祉対策

八重樫：そうです！文化法[ホ]にはなっていたけど、民族法にはなってませんでした。何もアイヌ社会のためになっていない。民族対策は行われてこなかったのは問題です。福祉対策であるという言い方がされています。アイヌの中でアイヌ民族のために活動をする専門家を育てられるために、幼児期からアイヌとしての強い自覚を育てないといけない。昭和40年以降の修学資金制度を受けたアイヌの大学卒業生は、立派なシャモになってアイヌのことに一切関わってない。原因として考えられるのは、幼児期からアイヌのことの説明を受けずに、アイヌとしての自覚を持たなかったから、高校生にアイヌのことを勉強しなさいといきなり言ってもそうならないです。

２００８年以降のアイヌ民族による政府への要求

ジェフ：分かりました。昔受けた差別のキズが解消されていない中で、継承者不足の問題もあり、しかも本当は経済的な格差等を是正するために抜本的な民族対策が必要なところで、文化振興法の下では、文化だけに特化した対策が一人歩きして、真の意味での解決にはつながらなかった状況がずっと続いていたんですね。

「民族教育」を少し後の話題にするとして、（その前もずっとあったのですが）２００８年当たりから、（この研究プロジェクトの一つの研究会でも取り上げられた）先住民族運動を通じて、アイヌの権利回復をする動きの隆盛が見られて、この部屋にいる皆さんは直接かかわっていたか、何らの形で影響を受けていると思います。それから、動きの一端をなしていたアイヌ協会について、デボ、２００８年６月６日の国会決議「アイヌ民族を日本の先住民族として認める決議案」を受けての、アイヌ協会内部の動きを紹介してもらえないでしょうか。

デボ：２００９年アイヌ協会の理事会で真摯に議論して、我々は次のような案を出した。自分ではなかなかよくできていたと思っていたが。

1）教育の充実への支援

2）アイヌ研究・民族教育への支援

ヘ アイヌの風習

ホ 平成９年法律　52号「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」、通称「アイヌ文化振興法」。１９９７年５月14日公布。

3）遺骨の返還、慰霊
4）広義の文化振興 ～経済活動との連携
5）文化振興等の基盤としての土地・資源の利用
6）啓発・教育の重要性
7）政治的参加への対応

それから、個人的に、俺は北方領土をアイヌに、アイヌの自立化基金、といったことも望んでいた。

萱野：私たちが２００９年の３月に発行した報告書の中に「先住民族サミット in Ainu Mosir2008」の経緯が書かれているので参照して欲しい。２０１２年1月21日に江別市民会館でアイヌ民族の声を政治に反映させるために、「アイヌ民族党」を結党した。

葛野：２０１２年から遺骨の返還の動きがあって、俺はアイヌの先祖の遺骨をコタンの土に帰すよう、活動もしてきた。

アイヌと和人の関係性について

ジェフ：さて、これで、現在までの研究会で、アイヌ社会が抱えている問題や政策の課題についてどのような話がされてきたか、ある程度は見えてきたと思うんです。次に「多文化世界におけるアイデンティティと文化的アイコン:民族・言語・国民を中心に」という研究プロジェクトに重要な関連があると思われるアイヌと和人の関係性に移りたいと思います。

この多元文化教育論講座の研究プロジェクトの主催で、今年の２月２日と３日に先住民族運動と世論形成に関する国際研究会を開催し、デボ、八重樫さん、葛野さんに参加してもらいました。これからのアイヌの政策的な状況を改善する余地はあるんでしょうか。一般の日本人の中の理解促進をすることは可能でしょうか。

萱野：アイヌ民族に関する国民の理解は必要ないと思う。先住民族として認められたならば、当然の権利として、埋蔵物に関する権利・土地に対する権利・言語を使用する権利・外交権を含む自治権などを権利として持っている。実際上はその権利が行使出来るか否かの問題だ。

八重樫：アイヌ利権と言われて、うちらに金が入っているようなことと言われてさ。

萱野：アイヌ個人には、全く金は回っていない。

八重樫：イランカラプテキャンペーン[vii]だって誰が儲かっているの？印刷会社じゃないの？

デボ：俺はもうかってない(笑)

萱野：ＣＭを流しているテレビ局などは、広告料は入るでしょう。

葛野：アイヌ民族党で早めにイランカラプテとかアイヌ語を全部商標登録すれば。カムイとか。わしらはね食い物というか。踏み台にされているんだ。

[vii]「アイヌ文化等の普及啓発をより一層推進するため、平成25年度から平成27年度の3年間を重点期間とし、民間企業や行政機関、学術機関等の連携により、アイヌ語のあいさつ「イランカラプテ」（「こんにちは」の意）を、「北海道のおもてなし」のキーワードとして普及させるキャンペーンを展開すること」となっていた（HPより）。

デボ：そこなんだけれど、最近のアイヌ民族運動の傾向にすごく気になることがあって・・・つまり、それは何事も十分に検証をせずに一方的にそれを批判すること、また、（政策の決定に裏と思われる人の）人格批判と捉えられること。これは決してアイヌ民族の精神にあっているとは思えなく、ネット上に匿名で繰り広げられている発言とほとんど何も変わらない。最近はネットの影響に毒される、右寄り左寄り偏りの人間が、正確な情報を知らずに深く哲学もしないで、ある特定の人や組織を敵視、あるいは批判しているのが残念である。ほかの団体などは、偏見を持つのも解かるが、もっと正確で落ち着いた判断力を持ってほしいし、オール・オア・ナッシングでは世の中通用しないということも理解してほしい！

　これから何をするにしても、アイヌ民族に必要なのは、アイヌ民族の精神を取り戻すこと、と考えている。最近いつもどんな時でもこんな場面だったら、山本多助は何をしたんだろう？萱野茂は何をしたんだろう？内の親父なら、何をしたんだろう、と自分に問うている。今本当に必要とされているのは、彼らのように、アイヌ民族の精神に則った行動を取り戻すことだべ。

八重樫：ただ対比という、デボさんとか葛野さんとか萱野さんみたいに、親が伝承者ではない人間にとって見れば、対比としてのアイヌという面もあるんですよね。ずっと繰り返しになるんですけれども、僕はアイヌプリを身近にみていないアイヌなんだよね。

ジェフ：ただ、民族教育の大切さも八重樫さんはずっと、繰り返し言ってきましたよね。おそらくデボが危惧しているのは、アイヌ民族特有の価値観を失った時のことだと思いますけれど…ね、デボ。

（デボ：）価値観は親や先輩からだけではなくユーカラやウチャシクマ、エピソードやいろいろなところから得ることができると考えている。本も有効じゃね？！

ジェフ：私が考えるに、おそらく阿寒や二風谷といった特殊な地域でなくとも、或いは親が有名人、伝承者、伝承者の子供じゃなくとも、そのアイヌの価値観、考え方を維持する方法はあるんじゃないかと思う。だって、そうでなくとも、逆に考えれば、後数年経てば、そのような人ですらいなくなりますし、対策を今打ち出さなければ・・・。

アイヌの価値観の伝達方法について

普段の生活の何気ない行動に

ジェフ：えっと、さきほど葛野さんはカムイノミという言葉を使ったんですけれど。何かをすることによって自分がアイヌであると感じること、志郎さんは何かありますか？

萱野：実はうちで飼っていた犬が死んだ。ちょうどうちの息子が小学校３年で９歳くらい。娘は小学校１年の時で７歳。その犬をアイヌプリで送った。１月だったので、犬の死体はこちこちに凍っている。二風谷の八幡神社の前まで、その死体を車に乗せて、うちの父親と息子と娘と私の４人で。道路は除雪されていないので、鳥居の前から先へ車では進めず、プラスチック製のそりに黒いアイヌ犬、名前がコロという犬をソリに乗せて、ちょっと高台のカラマツ林に

持って行った。犬の頭を西側に向けてうつぶせに横たえた。うちの父がその死んだ犬に向かってカムイノミをした。もちろんその時は録音も取ってないし、写真も何も撮ってないけれど、私もアイヌ語を勉強しているから言っていることは分かった。「あなたは、狼を首領とするものである。その狼のもとに戻りなさい」という簡単な言葉をアイヌ語で述べた。うちの犬は、「静かにあの世に行きなさい」と引導を渡された。そして、その死んだ犬の胸元に tasiro[viii]で20センチくらいグサッと刺した、もう死んでいるから血は出ない。アイヌ民族は、そういう動物の死体なども傷を付けないと、あの世へは行けない、と信じている。そういう作法を目の前で見た。あと供物、米・塩・鰹節か煮干しとイナキビなどを周りに撒いた。これ見たときは、これはやっぱり「アイヌだなぁ」と思った。そういう体験はなかなか出来ない。

あともう一つ、父の家の前で死んでいたスズメを nusasan[ix]の前で送ったと聞いた。うちの息子と父の二人で。うちの息子は、飼い犬とスズメ送りを自分の祖父から教わったことになる。私はごく普通の生活をしている。水道、パソコン、携帯電話を使い、自動車に乗って、家だって石油ストーブで暖とって、普通の家に住んでいるが、飼い犬が死ぬと、それを神社の近くの山へ運んで送る、というのにはびっくりした。

うちの息子は２０１９年12月現在31歳、もう22年前の話だ。こういう儀式は、やっぱり生活の中でなければ体験できない、と思う。こういう儀式を見たとき、自分はやっぱりアイヌなのだ、と思う。犬にもそれぞれ霊が存在し、それをきちんと送らないと駄目なのだ、と。それを今思い出した。

ジェフ：はい。ありがとうございます。

葛野：うちもそういうこと、うちの親父もそういう儀礼、儀式というのかひどくうるさくて。ま、今の言うそのシキカムイだ。シキカムイを踏むなということわさ、とんでもないことさね。カムイだからね。そういうことがまあ、ま、ま、ま、まうるさい。もう教えでなくてただ俺の時、うるさいのさ。

萱野：「敷居」って何？

葛野：うん、しき、しきあの、家の中にあるしき。

萱野：「敷居」？

葛野：いいえ、いや、戸のしきさ。

ジェフ：部屋と部屋の間の。

葛野：ああ、今家にしきっていうもんもないからね。ま、例えば戸を閉めるんでも、パターンと閉めたらもうこれ御法度さ。ね。御芸妓さんみたいなもんだね。しずかにそりそり、（萱野さん笑）こうやって開ける、閉めるときはこう閉める、閉める。もう一本ある分でも今に言ったしきを踏んじゃダメでしょう。やかんなんかもさ、俗にいう東に向けて口あるだろう。それを東に向けて置けとさ。なんで西に向けたらどうなんだってね。そういう不思議みたいなことがね、それが儀礼なんださ。まさに犬でも猫でも、まあ、豚や鶏はね、

---

viii 山刀
ix 祭壇

つぶして食うのは当たり前なんだけど。その前に儀式をやるのさ。頂きますとかね。今言ったその萱野さんのスズメが亡くなったって、それなんかね、そういうことも絶えず家の中に蛙は入ってきたらどうなるとかさ、バッタ入ったときとか、全部はこれだ。いちいち覚えていないんだけど、あ、こういうもんね。例えば、蛇が入ってきたらどうなるとかさ。そういうことは常々、俺の所にその、神様らしく家の中にあるのさ。cise kor kamuy[x]があって、simpuy kamuy があって。息子が今度いま sinuy kamuy というのを作ったんだけど。そういう古い小さいね、宝物みたいな感じがあるんだわ。それは例えばなんなんだって聞いてもその中身を教えなかったわ。教えるもんでねいって。もううちらのは骸骨になっている。見ても分からないもん。だから言い伝えでこういう場分かるんだけどという、そういうことがなんで神なのカムイなの、ま、そういうことをしているから俺はアイヌなんだな、という思いはあったんだけど。

「アイヌになる」転機

ジェフ：はい。ま、えっと、このような自分がアイヌである、感じさせる小さなエピソードは語れば今日一日中語れるかもしれませんけれど。一方で、葛野さんは22歳までは自分はアイヌであるという認識があまりなかった。昨日は帯広は差別がひどくてという話があって。僕周りに40歳、50歳になるまで自分のアイヌであることを拒絶して、あることをきっかけにそれを受け入れるようになった人たちは少なくはないですけれども。皆さんはアイヌであることを肯定的に受け入れアイヌとして生きるきっかけはあるとしたら聞かせて頂きたいんですけれども。

「作られたアイヌ」、相対性

八重樫：俺？あの、ずっと繰り返しになるんですけれども。アイヌプリを身近にみていないアイヌなんだよね。僕の場合は本当に、作られたアイヌ。30の年に北海道に帰って、で、それからもう今57なんだけど。30年ぐらい経ってからやっとアイヌっぽくなったかなと思っているんだよね。そういう形で自分の中にアイヌプリを入れていかないとアイヌになれないアイヌだから。小さい時に見たアイヌともう次元が違うんですよ。で、僕自身がアイヌのことをやるきっかけになったという、ま、小学校に上がる前父親から「お前はアイヌだから」と言われて育ったけれども。小学校でアイヌだと言われてなんだ分からないんです。で、ずっとそのまま成長して中学校の時に突然クラスメートは「アイヌアイヌ」と言われるわけです。それが結局自分のアイデンティティーの元なんだよね。僕がなんで自分がアイヌだと思えるのか、差別されたから。アイヌって言われてから僕がアイヌになったんだっていうさっきも相対的な話って言っている。そうなんですね。だから、もしその時に同級生あるいは周りからアイヌって言われてなければ、僕は今和人、シャモになっています。

[x] 家を司る神

ジェフ：はい。30代に浦河に戻って。

八重樫：戻るきっかけになったのはまだちょっと別のものなんだけど。アメリカ先住民族の本読んだんですよね。その時にそのアメリカ先住民族の受けた苦しみが、アイヌのそれと似てた、近かったっていうのがあって。アメリカ先住民族にもともと興味があったんだけど。そういう形でアメリカ先住民族を通してアイヌのことに興味、関心を持つようになって、20代、それは後半ぐらいからなんですけど。たまたまうちの父親がその当時のウタリ協会浦河支部長をやっていたもんだから。「おまえはアイヌのおかげで大学まで行けたんだから。おまえはアイヌにアイヌ協会に恩恵しなきゃだめだから帰ってこいと言われて。帰って来ちゃったんだよね。それはもう運の尽きで俺の貧乏生活のはじまりになりました。

「アイヌっぽさ」

ジェフ：あの、ようやく自分は、ちょっと私、正確な表現は今復元できないですけど、ようやく自分はアイヌ。

八重樫：ponno ponno[xi]（萱野笑う）アイヌっぽくなった。

ジェフ：アイヌっぽくなったって。それはどういう意味で、何を持ってponno ponno アイヌっぽくになったって。

八重樫：　いや、分からないけど。常にアイヌのことを考えて、アイヌが今後どうなっていたらいいのか。アイヌのことしか考えていないんだよね。だからかなぁ。言われるけど、家族が第一とかあるんじゃないですか。ね。子供も別の思いで。子供もいるので。家族が第一とか言うんだけど。家族はそこの面でもアイヌが大事だよね。でもアイヌもやっぱりアイヌとして見てくれているんじゃないのかな、そんな感じもするし。一人で「私はアイヌです」と言ったときそれは認められないもんで、コミュニティーの中にお前はね、そのコミュニティーの一員、アイヌだって言われて受け入れられて初めてそのコミュニティーの一員になると思うんで。漸くそのさっき言った、父が様似 un kur、母が沙流 un kur で、じゃ俺が浦河で生まれ育ったから浦河 un kur のコミュニティーで一員なのか。違うんだね。僕はあくまで浦河で生まれ育った様似と沙流のハーフなだけで、浦河のアイヌのコミュニティーの一員ではないみたいなんだよね。ようやく遠山サキさんたちとかと知り合って、色んなことをやっているうちに、浦河のコミュニティーの一員として受け入れられたのではないのかなという気がしている。妻がウラカウンクル、ウラカウンクルのアイヌのコミュニティーの一員としてずっと生まれ育ってきているから、妻の存在もあるかなと気がしますけどね。ようやくなんというんか、色んなアイヌのことを伝統的なことも含めて、儀式とかそういうことも含めて、アイヌっぽい考え方が出来るようになったかなっていう感じですよね。まだまだ血と肉になってはいないですけど、知識としてあるだけだから、熱湯を流し台に流したらダメということを知識として知っている。だから、たまに「あ、しまった！」とかと思う。カップ麺は、焼きそばがあるでしょう。

---

xi. 「少し」

焼きそばを作るときに、ジャーとお湯を投げるじゃ、あのとき「あ、しまった」一回水出しながら、冷やしながらお湯を投げないとダメダメなんだな。そういうことがあるので、まだまだ血と肉になってないんだけど。知識としてそういうのは何点か入ってきているなという感じですよね。

デボ：あのさ、俺思うんだけど、アイヌにならないからシャモになるってのはあり得ないんでないかな？例えは、極端で危ない話だけどさ、黒人いやだから白人になれるって言ってるようなもんでさ、アイヌになれなかったらシャモだってのは勘違いでしょう？アイヌ的な生き方を選ばないアイヌであって、和人にはならんでしょう？混ざりっ子はシャモにはなれないと思うよ、だってシャモ社会は入れてくんないしょ！本音ではさ。ハーフとかクオーターとかならどっちのアイデンティティーも選べると思うけど、これも危ない発言なんだけど、白人の血を引いた黒人はいるけど、黒人の血を引いた白人はいないわけで、それと似てるんでないかな？やばーい(笑)

様々な物、人に対する気遣い

ジェフ：なるほど。

葛野：昔の古いさ、古い流しなら、今ステンレスで、こうなんだけど、昔古い鉄板みたいなあれ、熱いお湯をやったらもう曲がるんだよね。

萱野：どうして？

葛野：熱で。あれがね、その、ま、可哀想だって。熱々をかけたからね。鉄板が嫌がってこうやって曲がる。それをね、こう言うんだわな。全くその通りだと思うよね。ま、それがどうしたのよ、誰かに言われなければ、それはどうしてなの、そういう話になるから。だからここだけの話と抑えておくさ(皆笑)。そういうことを我々の先祖が考えていたんだわな。

萱野：私は、今の話で思い出したことがある。平取町紫雲古津にお住まいだった、鍋澤保さんが「熱湯を外に持って行って、草の上に捨てると、その草は枯れる」と言っていた。

葛野：うんうん、全くその通りだね。

萱野：それを考えないで、熱湯を捨てると草が死ぬ。「なるほど」と思った。これは私の個人的な意見だけれど、蜘蛛や昆虫が家に入って来ても私は殺さない。そういう虫たちは全て捕まえて外へ逃がす。一部の人は、それをバシバシ殺す。ハエなんて殺してもどうでもいいと思っている人もいるかもしれないけれど。虫を無闇矢鱈に殺さないというのは、アイヌプリだと思う。私が殺すのはスズメバチとカだけ。スズメバチ、刺されると命が危ないから。カも血を吸うやつでしょう。実はメスしか血を吸わずオスは血を吸わない。あれは産卵期に栄養が必要なメスだけが血を吸う。

ジェフ：なるほど。

萱野：無闇矢鱈に生き物を殺したりしない。

葛野：世界的にもさ、地球が出来たときにね、要らないものは作らなかったと思うんだよね。原点をたどればになるわけよ。いなくてもいいものは逆に人間だ(皆笑)。人間はいなくてもいいわ。人間

はこの地球を色んな形でいじめたり何だり、好き勝手、自分らのもののように使ったり、人間だ。スズメバチだってね、叩かれたくて出来たわけでもない。申し訳ないときに家に入れた時に叩いてしまう。それは現実なんだけどね。そこの原点までに戻っていいかどうかは、別としてね。アイヌはそういうことだと思うな。アイヌもどこのインディアンでも、火を大事にしない人はいないし、水を大事にしない人はいない。もちろん太陽さんだって自分のもんだってね、ビニールハウスでかこった人なんかいない。そういうことだから。原点はね、どういうふうに例えばいいか分からんけれど、わしらのものの考え方がそういうことよな。

それは今わしらの子供らに言っても、まだ分からんべし。お父さん、それがどうしたのさ、そう言ったら、答えはすぐ貰おうと思って。それがどうしたのさみたいなことを言うけど。コップにね、お湯をそそぐときにさ、半分注いでなみなみ溢れたかのようなもんださ。そういう論理になってしまうんだけど。そうではない。なにかな深いわけがあるっていう、そんな中で我々ずっと生かされてきているということをね、これ少数民族ではなかったら分からん、物の考え方かもしらんよね。

萱野：例えば、居酒屋でビールを飲んでいて、間違ってビールを溢れさせたとする。アイヌの大多数はこう言う。「おー、テーブルも喉が乾いていたな！」と。鷹揚というか、場を和ませる。こういう感覚は、面白いと思う。いろいろな物を擬人化してしまう。実際には、テーブルは喉は乾かない。けれど、こういう場面では、デボも言っていたのを聞いたことがある。この発想がとても面白い、と思う。

葛野：だから、悪いことってさ、間違ったことするじゃ。icarpa[xii]でもkamuy nomi[xiii]でも間違ってね、何かを溢すと、神様が欲しがってたんだから、そう言われればやった人はほっと思うでしょう。だけど、この野郎と言われたら、本当にもうこんなになっちゃう（ジェスチャー）しさ。そういったちょっとしたあんばいでね。

萱野：そうだね。

葛野：それのちょっとした言葉づかいでね。いやいや、神様、仏様が欲しいから、欲しがっているから、文句言わんでちゃんと拭けばそれで済むことだって。そういうこともあるし。ああいうhuci[xiv]やekasi[xv]たちばっかり居ればいいなっていう思いもないわけじゃないんだけど。

萱野さんが平取町でトマト農家がトマト生産のために特殊な蜂を使用していたが、それがハウスから逃げた話をした。「農家はいっぱい金を儲かっているかもしれないけど、これだって生態系の破壊だから」。

「おっかない人」による戒め？？

ジェフ：生態系の話とか、命を大切にするアイヌの価値観、言葉使いって出てきました。これは実は最近、デボが考えたいって言って

---

xii 先祖供養の儀式
xiii 神への祈り
xiv 尊敬される年配の女性
xv 尊敬される年配の男性

いたことの一つなんですけれど、人が何か過ちをしたときに、それを冗談で指摘するとか、優しく人を戒めるって言ったところはあったと思うんです。一方で、時々あの ekasi はおっかなかったとかっていうのを聞きます。そういうエピソードはありますか?若者が歩んではならない道を歩んだ時の怒って正すとか。

葛野：俺はね、小さいときはな、小学生になっていないと思うわ。まだまだ昭和20年後半、戦後だから。40年～50年に渡って俺らの kotan[xvi]でアイヌが結構いたのさ。東静内だ、三石、近隣から kamuy nomi に集まってくるのさ。集まってきて、ま、kamuy nomi をやっている最中もやるんだわこれね。caranke[xvii]やってね。これはダメだとか、反対だとか、真っ直ぐだったとか、こうやって。その中でも最終的に icarpa まで終わって、やれやれと思って。そうしたら、その以前から酔っ払っている。既にね。俺は端でこう見たら、そのうちに始まるの、今度、iresu huci ってね、火の神様はまあ、一番大事だという、その火の神様を跨いでね、飛んで行って今度そっちで喧嘩するのさ。ちまたから刀を持ってきて。そうしてやると、それ逃げ出して、やっと逃げてね。その中でまだ何十人もやっている。それ、あ、こんなことも二度とないべなって、子供の心に思うんだけど。また一週間か10日して、また別の家でね、また kamuy nomi と言ったら、同じメンバー、それそっくりそれをやっているぞ。喧嘩するほど仲が良いみたいなもんでね。何が不服で何が不満で何が良くて何が悪くてっていう部分ではね、今だに、いま解読しようと思ったっても、今はそういう光景がねぇいわけだから。今は成り合い成り合いでね。Aさんこっちで座ってください、Bさんこっちで座ってください、なんか言ってください、後3分で終わります、シャンシャンと終わっているのであってね。ま、飲んで酔って出来ないんだからね。銘々缶ビール持って帰ってくださいというもんでね。まあ、やっておっただ、あの頃の。ま、ば様はおっかないと思ったけど、ば様はどっちかというとめんこめんこする方だから、や、そこら辺は。俺的には ekasi おっかなかったなぁ。もう刀を振りますんだもの（皆笑）。おっかないなんていうもんでないもんね。そういう思いしてでも本当に自然界にあれ崇拝をしてたもんだからさ、自然界を崇拝するものであれ、さ。もう少し喧嘩しないで静かにね、静かに喧嘩してもいいと思うんだけどさ。その後でまた一週間飛ばしたら、またどっかでまたそのことをやるんだわね。面白い。

デボ：鬱積したやりきれない気持ちがたびたび、いや、しょっちゅう喧嘩とか暴れる行為につながってたと思うよ！辛い時代がそうさせたんだと思うよ！だから今でもシャモを悪く言ってないと立ち行かないし、判断が鈍ってる、そんなアイヌがけっこういるんじゃないかな?！そういったアイヌは解放されてないんだと思う、それを何とかしたいんだよ！

一部の地域での社会改善運動

萱野：私が小学校3年くらいの時の思い出なのだけれど。二風谷の

---

xvi 「集落」
xvii 談判

地域でうちの父・萱野茂と貝沢正さん以外は酒を飲んじゃいけない、という暗黙の掟みたいなものがあった。

葛野：正さんとかで？

萱野：うちの父。

葛野：以外は

萱野：この二人以外は飲んではいけない。

葛野：え！それはまた！

萱野：なぜかと言うと、当時のアイヌの若者が酒に溺れて、酒を飲むと喧嘩をしたりする。そういう若者たちは強制的に精神病院に入れられて断酒させられた。だからうちの叔父さんたちもそうだし飲んでいた人たちは皆断酒させられた。だいたい昭和10年から16年生まれくらいの人たち。ある意味、二風谷のコミュニティーへ酒が害を与えていたことに早いうちに気づき正した。苫小牧にある精神病院へ行かされる。強制入院で1週間か1ヶ月か分からないけれど、酒を飲むと気持ち悪くなる薬を飲まされるらしい。我々の世代は違う。私の叔父さんたちの世代。それで二風谷でほとんど酒を飲む人がいなくなった。現在も飲んでいいのは貝沢正さんと萱野茂だけ、それ以外の年下の者、皆は酒を飲んじゃいかん。でも結果的には村のためになった。その結果仕事に一生懸命打ち込むことによって、いろいろな事業に成功を納める人が出てきた。名前を出せばうちの叔父さん、今は造園業をやっている人。うちの父に、叔父さんが酒を飲み酔っぱらって怒られていた。現在、その叔父はものすごい金持ちになった。本人も自分で言っていたが、「ずっと酒を飲んでいたら今まで生きていない、と思う。とっくに死んでいる。」と。酒を止めさせてくれたうちの父・萱野茂に感謝していると思う。

ジェフ：浦河で何かエピソードはあるんですか？

八重樫：いやーだって、周りにアイヌいないからね。父も母もアイヌだって、別にアイヌプリがあるわけでもないし。さっき言ったようにアイヌのコミュニティー、浦河のコミュニティーにも入っていなかったし、そういったそのアイヌプリの中のそういうエピソードは皆目。ないですね。只、でも父は近隣の民のアイヌだから。浦河の近隣の町だから。でもやっぱり父はアイヌの知人は居ましたけど、で連れて行って、うちの母は母乳出なかったから、牛乳もらいに行ったりなんかしていくんだけど、顔が濃い。こう濃いでしょう。おっかなかったね、アイヌが（皆笑う）。優しいんだけどね、顔がおっかなかったな。そういう思い出ぐらいしかないんだね。

あとなん年かしたらなくなる…

葛野：皆、あれだよね、80％といわんけんど、50％ぐらいは酒と教育でいなくなっているよね、俺らの村にね。３００名ぐらいのアイヌとシャモがいたような気がする。だけど、今はアイヌと称される家３軒しかいないね。あとこのままね、跡取りという問題もあるんだから。ま、俺の家、跡取りというのはいねぇから。何年かしたらいなくなるということになるんだけど。

八重樫：東別ということ？東別のアイヌということ？

葛野：あ、東別のアイヌ。

生活がなかった

葛野：そのときのことをこう考えると、なんか恐らく、俺小学校のときなんか、生活という部分はなかった。ただ、飲みはしないで、食ってさ、食ってちょんだべね。もう衝撃的なお話は女性群もいるから、日本語でしゃべるは（傍観していた学生は全員留学生だった）。正月になったら犬殺しだね。

萱野：あ、そう。

葛野：うん、俺、犬食った、猫も食った。当たり前だもん。お前そっち引っ張れってさ、え？俺に引っ張らす？！今だからそう思うけど。当時は何の事ないの。赤い犬でも白でも、食えるなと思ったらさ、肉食えるなと思ったら、何でも食うだな。そういう血が流れているんだべな。でも、食いたいというのと、…（留学生たちに向かって、強調しながら）フィーリーピンーバーナーナ。フィリピンバナナは田植えのときにしか食えなかったは。30年前は。田植えで。（ゆっくりしゃべる）田植えは稲を植える。そのときはでめんざん[xviii]が来るわけよ。（再び言葉を強調）パート。パート。（学生たちは日本語についていけないので、学生が笑う）（葛野は声を大きくして）フィリピンバナナ。食べるのは田植え。田植え。田植え。

ジェフ：Rice planting.

学生たち：Ah!

[xviii] パートタイムの農業労働者

葛野：の時しか、食べられなかった。

昔の貧乏生活の苦しみをいたわってあげられたら…

葛野：肉は正月。豚飼っているから、豚殺して、正月に枝下げて。こんな、もう、窓なんかほとんどないんだわ。天体望遠鏡。べろーんとこう空いているんだわ、そこ。どこかに豚肉足一本さげてそこから包丁を持ってきてこうやって切ってストーブ当てて食っていた。俺の叔母さんはね、目悪いしさ、目悪い…もちろん sinuwe[xix]していたけど。そのころはそうだな、60ぐらいなったんだね。いつからめくらになったか知らんけど、爺と婆がいて、別に、もちろんその時は民生員、その時にあったのかなかったのか。生活はねぇわけだから、もう犬殺してその辺なんか野菜取ってきてさ。俺はね先のね豚でも乾いたアカハラでもね。冬だからあかはらはいねえわけだからさ。豚でも犬殺しだもんね。そこらへんいる犬引っ張ってきてさ俺犬引っ張る、ぎゃぎゃって。でも今考えたらあれが当たり前であってさ、我々民族の、当たり前の生活だって。

当時から、そういう、ま、福祉政策はなんだったんだべなとかね。あのころから始まり、箱モノづくり始まったんだけども、うちらの叔父さん叔母さんらは決してそんな、もちろん日本語も分からないべしね。アイヌ福祉政策ってなんだって思ってたでしょう、おそら

[xix] 入れ墨

※ ２０２０年の４月に白老町でオープンされる予定の国立アイヌ民族博物館

く。そういう思いは、全然、良い思いをしないで亡くなっていたと思うんだ。周りは皆そうだった。みんなそうだった。ま、俺たちはまだそれでなんぼ、生きていれるまだいいんだけど。先輩やら utari[xxi] やさ、まるきり関係ない人たちがどういう思いで亡くなっていたんだべな考えるとね。なんとかしてあげたいなってね。icarpa の一つでもやってやりたいなと思うけど。とすれば、生きている人が考えることであって。亡くなる前に色んなことをやりたかったはずなんだよな。今あそこの爺だ、あそこの婆だ、icarpa をしたって気持ち的に本当に届いているんだべなんとかさ。そういう思いだな。俺は何か。可哀想だっと思うんな。

石油ストーブでは kamuynomi はできない

萱野：私の小学校6年ぐらいの記憶だけれど、母方の祖父は二谷善之助という。祖父は、kamuy nomi が上手で、正月になると各家庭から先祖供養 sinnurappa と平取では言う、sinnurappa の kamuy nomi を頼まれる。うちには既に電話があったけれど、祖父のところには電話がなく、うちへ来てあちこちへ電話をかけて、「お宅は薪ストーブか、石油ストーブか」と聞く。相手の家がもし石油ストーブだったら、自分で七輪を持って行き kamuy nomi をする。七輪で炭を焚いたか薪を焚いたかは知らないけれど、火を熾して、kamuy nomi をしに行っていた。その kamuy nomi の現場を見ていないが、電話かけているのを見たことがある。だから「何月何日に行くけれど、お宅は石油ストーブか、薪ストーブか」と聞く。石油ストーブだったら、燠が取り出せず kamuy nomi が出来ないので、kamuy nomi をする家庭が石油ストーブの場合は、七輪を持って行った。祖父専用の kamuy nomi の道具だった。

アイヌのロールモデル

ジェフ：なるほど。話はいくつかの方向に行っていて。今までの研究会の中で、結構子供のころの様子話が出ていたんですけど。現代のどういう課題があるのかということに。そっちの方にそろそろ移りたいと思います。デボさんは今後のアイヌの進んでいく方向性について考えたいと言っているんです。そこで私が考えている一つはこれからのアイヌ像。理想的なアイヌはなんだろうか。どのように教育をすればいいか。そこでいわゆるロールモデル。皆さんが尊敬している先代アイヌがいるのなら、その人のことを聞かせて頂きたいです。

小川佐助

葛野：お金のことで言えばアイヌ協会を作ってくれた小川佐助さんだな。その人はお金があったからそうしてくれたのか、アイヌ協会にも一千万、静内支部が最初で百万円の寄付をしてくれた。わしら今回の原点にした。色んなことでまだ分からない部分があるんだが、深くは知らないけど、本当にアイヌのね、いろんな本を読んでいる

xxi. 同胞

から、アイヌの人のためになるべく、やってくれた人だなと思うな。お金が全てだと思わないんだけど、だって何をするんでもね、時代にお金がなければ前に進めない状況だ。原資があるからね。その一千万の原資は北海道アイヌ協会は何に使ったんだ、とかっていう思いもあるんだけど。ま、逆にあれがあったから、ああいう会を作ってしまったから今のね、幹の方が上でさ、我々末端の人の生活はよくならないでね。ま、余計なことだけど、アイヌ協会の役職員、あそこに働いている人は何百万の給料をもらってね、年間何千万の維持管理費もらっているんだけど。その維持管理費これ下回っているんだけど。その金を元に我々末端の何万人というアイヌの生活をどうにかしなきゃならんということを考えてくれ。俺は組織だと思うわけよ。ここ何十年考えてみると、組織自体が、自分たちが給料を貰わなかったら前に進めないんだよね。そのことを考える協会だ、みたいなことを言ったりするから。あ、これ我々は末端にいてさ、ぐずることで、なんぼ勉強してもこんなことを言うことはなかったな。だけど、それに漏れている人はさ、いや、ぶつぶつ葛野ばっかりアイヌ協会行って七百万もらっているけど、今度息子を大学にいれる、陰口で叩かれる。皆がよくなるような政策なんてしてくれないんだと思う。

ジェフ：分かりました。それはまた別の課題になるんですけれども。いかがですか？

八重樫：僕はそういうのはいない。先のことしか考えていないから。子供たちにどういうアイデンティティーを残してあげられるのか、そっちの方にしか興味・関心がないので、過去にどういう偉い人間が居ようと僕に興味・関心がない。

ジェフ：はい

足を引っ張り合うリーダーなんか要りません！

萱野：私の場合は野村義一さん。そして、貝沢正さん、私の父・萱野茂。この三人は本当にアイヌのことを考えていた。私は北海道アイヌ協会の活動についてちょっと不満なところもある。そこでアイヌ民族党という政治団体を作って、自分たちが政治に参加できるようにしようということで結党した。政治活動が出来ない北海道アイヌ協会の代わりに政治活動が出来れば、との思いで。政治的なことについてうちの団体が責任を持って行おうと思っていた。我々は２０１２年１月21日に、江別市でアイヌ民族党の結党大会を開いた。その結党大会の際、当時の理事長である加藤理事長に、再三再四結党大会へ挨拶をしてくださいと頼んだが、全く顔を立てに振らない。結党大会当日、阿部一司・豊岡征則両副理事長が参加してくれたが、理事長の許可が出ず、アイヌ協会としての挨拶は見送られたという経緯もある。しまいには、加藤理事長は新聞にこう言った。２０１１年11月30日に、鳩山由紀夫衆議院議員が代表を務める「アイヌ民族の権利確立を考える議員の会[xxii]」で、『見出し：アイヌ民族党設立に不快感、協会理事長［加藤忠・道アイヌ協会理事長は30日、来年

[xxii] 「アイヌ議連」

1月の結成を目指す政治団体「アイヌ民族党」について、「何も分からないので大変迷惑を被っている」と述べ、設立に向けた動きに不快感を示した。……中略……国政への影響を念頭に、加藤氏は超党派の出席議員らに「おわび申し上げる」とも述べた。』（２０１１年12月1日付け北海道新聞）と報道された。加藤理事長は政治団体の意味を理解していない、と私は本当に思った。我々は政治団体を作り、アイヌ民族が国政や道政・町政などの議会へ議員を出して、政治的発言力を持とうという考えでやっているのに、北海道アイヌ協会のトップである加藤理事長はその真意を理解していない。その時、江別市の清水裕二先生は副代表で、現在は副代表を退いたが、当時、清水先生はこう言った。「加藤理事長は法の下の平等も知らないし、基本的人権の尊重も知らない」と。

萱野：私はこれだけは、言いたい。アイヌ民族みんなのために自分たちで政治的な力を持とうと思って結党したのに、それに水を差しているのはアイヌ協会の加藤理事長だ。日本国憲法では「結社の自由」、「思想信条の自由」が認められている。誰が何を考え、どういう団体を結社しようと日本国憲法で守られている権利なのだ。

野村義一さん、貝澤正さん、萱野茂さん

加藤理事長の発言は残念に思った。アイヌの素晴らしいリーダーは野村義一さん。私は、野村義一北海道ウタリ協会理事長（当時）とスイスのジュネーブ（国連欧州本部）へ、１９９３年の夏に２週間ほど「世界の先住民族権利宣言（草案）」ワーキンググループの会議があって、ご一緒させていただいた。私の渡航費用や滞在費は、市民外交センターが負担してくれた。野村理事長は言葉使いも丁寧で紳士的だった。お酒は飲むのは飲むが、夕食のとき日本酒をコップ一杯だけ飲み、その後自室で休んでいた。だからお酒を飲んでも乱れることもない。立派な人だと思う。

当時、私は35歳で野村理事長は85歳、私は国連欧州本部の中を理事長と同じように歩けなかった。昔、私は両足に怪我を負い、その後遺症もあったけれど。理事長はそのとき85歳で「私はあと15年経つと１００歳だよ」と言っていたのでよく覚えている。とても元気で健脚だった。

もう一人は貝澤正さん、北海道ウタリ協会の副理事長として長年、野村理事長の補佐的な立場で活動をしていた人。地味ではあるが、本当のことを言ってくれた人だった。だから言われた側からすると聞いて面白くないが、真髄（本質）を突いた人。なんでもかんでも耳に心地良いことを言う人は一番危ない、と思う。相手を騙す場合の常套手段だ。聞くと嫌なことや、言われて嫌なことを言ってくれる人は、相手のことを本当に思って、敢えて言うと思う。だから本当のことを言ってくれたのは貝澤正さんだと思う。貝澤正さんは誰にでも結構ずけずけものを言うから嫌われた部分もあったが、本当のことを言うから嫌われた、と思う。だからアイヌ民族の中で真実を言って、皆に嫌われてもそれは貝澤正さんというキャラクターだと思う。

もう一人、私の父・萱野茂は生まれるようにして生まれ、自分の

役目を全うしたと思う。なぜかと言うと、生まれた二風谷村で一番貧乏人の家庭だった、と。満5歳（１９３１年ころ）まで屋根も壁もカヤ葺きの家に育った、と本人が言っていた。当時、木造作りの家もあったが、それは金持ちの家だったようだ。私の父方の祖父（貝澤清太郎）は、すごく雄弁な人で、アイヌ語をよく知っていて、儀式に長けているという人だった。父が子供の頃、小学校は明日もやっているが、儀式は今日だけだからと「一緒に行くぞ」と、儀式に連れ回されたらしい。４歳のとき[xxiii]に二風谷在住のニール・ゴードン・マンローさんの所へ連れられて、マンローさんが金を出し行った熊送りを見ている（北大や歴博にこの映像は残っている）。こういう事実は、萱野茂自身が本にも書いている。父・茂は、アイヌ文化に精通し、アイヌ語にも長けた父親に、アイヌ文化について小さい頃から教えられて育った、と言える。小学校を卒業後は、造林人夫（現在は「人夫」を使わず「作業員」としてるが、敢えて使う）を手始めに、木樵（きこり、「杣夫（そまふ）」とも言う）を経て、二風谷の２３７号線沿いで萱野工芸店の店主を務め、アイヌ関係の書物を書くようになり、資料館の館長を務め、平取町議会議員（１９７４年～１９９２年まで）を務めた。１９７４年から五期なかば、18年間務めたが、参議院議員に立候補するため、１９９２年６月に町議会議員は辞職し、１９９２年７月の参議院議員選挙の比例代表候補として挑戦したが次点で落選。選挙の２年後（１９９４年８月５日）に繰り上げ当選した。日本社会党という政党が、萱野茂を比例代表候補として戦った結果、議席を得られたわけであって、自民党や公明党のお陰でも、どこかの政党のお陰でもなく、日本社会党という政党の英断だった。

　我々アイヌ民族に「比例代表候補の一枠を提供する」という政党が現れるなら、アイヌ民族の誰かが、すぐにでも国会議員になれる。私はこの事実を言いたい。私は政治団体を作るとき「そんなことをやってどうするの！」と、うちの女房から反対された。でもやってみなければ、分からない。昨日[xxiv]の勉強会[xxv]を通じて、皆の意識を高め、少しずつでも政治参加ができれば良い、と思う。私の仕事と直結はしていないが、政治団体（アイヌ民族党）の活動もやっている。

　野村義一さんは白老町の町議会議員を長く務め、白老の漁業協同組合の専務理事を務めたあと、北海道ウタリ協会の理事長を長く務めた人。みんなのために、アイヌ民族のためという発想で活動しないと、リーダーとして失格だと思う。だから加藤理事長はちょっと残念なところはある。加藤理事長は、アイヌ民族全体の利益を守らず、日本政府側からすると御しやすい相手という立場の人のように思う。日本国憲法を十分理解していない、残念な人だ。

[xxiii] １９３０（昭和５）年

[xxiv] ２０１９年11月30日

[xxv] アイヌ民族党主催

もしもアイヌ民族教育ができるのなら、その内容について

ジェフ：今教育学者として考えさせるのは教育財政なければ民族教育が出来ない。教育財政を獲得するために政治的な力が必要なので、確かに政治はとても大切なことだと思いますけれど、もうちょっと身近な実際の教育と言った場合に、どう言った価値観を次の世代に伝えたいのかといったときに、指標となるものの一つとして、ロールモデルについて質問を出しましたが、その他に次世代にアイヌプリ、アイヌ文化を伝承するときの指標となるものあるんだったら。

八重樫：大事なのはアイヌの教育、アイヌの歴史と教育を、学校や公の教育の場でやっていくことが大切。さっきの話で、儀式に参加したりとかいろいろな話があったんだけど、全てのアイヌがそういうことに参加したり学ぶことは無理だと思う。そこから漏れた人たち、辰次郎さんとかその他のカムイノミを見せるとか。だから公の教育の場で教育することは大切になる。

ジェフ：カリキュラムはどうするという話になるんですけど。

八重樫：アイヌは信仰とともに生きてた民族だと思うから、アイヌの考え方、価値観を小さいころから教えていくべきなんだろうなと思う。でも大きくなると、重要になってくるのはアイヌの辿った歴史です。例えば、北海道は独自の歴史があるにもかかわらず、日本の全ての歴史に一括りにされている。北海道に住んでいる人間が奈良県の歴史を学んでどうするのと思う。そういうことを全然知らないから、だからアイヌって馬鹿にされているんですよ。アイヌって馬鹿にされるってもんじゃない、きちんとした歴史もあるし、北海道は歴史がないと今でも言われる。縄文時代からずっと歴史はあるんです。そういうものを一切に教わってこない。全道でそういうことを教えていけば、その中のアイヌの子供たちがアイヌというアイデンティティーになりうる可能性があると僕は思うんですよ。

言語教育の方法と課題について

ジェフ：はい。言語教育に関してはなにか？

八重樫：やっぱり信仰とともにある民族だから、言葉と精神文化は切り離せないものだから、言葉も教えて行かないと、本当のアイヌの精神文化を伝えられないと思う。

ジェフ：言葉を教えるときに、コーパスというんですけど、単語とか文法とかをたよりにして教えられるんです。辞書を作ったり、文法書を作ったり、そして伝承という側面、なるべく言葉の話者に講師をして頂くんですけれど。こういうことを教えるために資源に関してなにかありますか？

八重樫：世界の先住民族の中で言葉を失った民族はいっぱいあって、言葉の問題はアイヌだけに限らない。なかなか特効薬がないという現状だと思うんですから。アイヌ語はどこの言葉をやればいいのか。沙流方言をやるの、むかわ方言をやるの、ということになってくるので、簡単ではないですし。例えば、先祖供養はさっき sinnurappa の話が出たけど、この辺は icarpa もいうんですけども、そういう違いもあるし、carpa ってなんなの「散らかす」なの、という話だし。小さいときはやっぱり単語だね、大きくなるときは文法。なんだっ

け、他動詞、自動詞とか、人称系とか難しい話なんだけど。

萱野：それは覚えればいいんだ。（萱野さんが自動詞と他動詞の説明をする）

デボ：大切になってくるのはアイヌの伝統的な考え方から導き出される話の断片をつなぎ合わせて、整合性のある具体例やエピソードなどをたくさん集めて、皆で哲学することだ。例えばアイヌが山に入るときはちょっとした挨拶を神々にするよね！なぜ？それをするのかどんな言葉を添えていたか？その意味は？常に具体的に意味を探って理解し、現代にどのように応用するか方法を考えるべきだ！みんな気が付いているんだけど、もっと具体性をもって話すべきで、今まで聞いていたら十分にできそうじゃない！

民族の自覚を覚醒するため、交流が大切

萱野：自分がアイヌに覚醒した話をする。1987年9月2日～14日の日程でカナダを訪問。バンクーバー島の北にあるAlert Bayという島で2日間ほど民泊した。カナダのインディアン（土着という意味で使用）であるクワクワカワク族の日常会話はすべて英語で、独自の言語であるクワクワカワク語は85歳以上の人たちしか話せない。この訪問団の団長だった私の父・萱野茂は、アイヌ語の最年少の母語話者で62歳。母語話者の年齢から推し測り、言語継承についてはクワクワカワク族の状況よりアイヌの方がまだましかもしれない、と思った。日本では、アイヌ民族も和人も日本語での教育しかなされていない。このAlert Bayでは、ウミスタカルチャーセンター（博物館）で小学生たちが週1回クワクワカワク語を学んでいる、と聞いた。その状況を聞いた時、自分たちの言葉は大事だと改めて気付いた。この経験で、私はカルチャーショックを受け「アイヌに覚醒した」と、言える。翌年、1988年1月15日、東京から二風谷へ夫婦で戻り、私はアイヌ教室の事務局員となった。今のアイヌの子弟に必要なことは、海外の先住民族との交流を通して「カルチャーショック」を与え「アイヌに覚醒させる」こと。日本国内では「カルチャーショック」を受ける機会は極めて少なく、外国の先住民族と交流することによって、日本国内でのアイヌ民族の置かれている現状がよく分かる。アイヌ民族自らが、自分自身で気付くことが大切。こういう体験をさせないと、「あなたはアイヌだからアイヌ語」をとか「アイヌの歴史の勉強」をしなさい、と言っても、個人レベルでその学習を継続するのは困難だ。政治的な働きかけ、または国や行政が、アイヌ民族に対する公教育での「学習指導要領（案）」を示さないと難しい。今の「アイヌ施策推進法」では、自治体に金が入ってくるシステムだけが構築され、アイヌ民族のために有効に使われているか否かを検証する必要がある。

デボ：次からはどうしたらもっと具体的にアイヌブリで考え判断し行動するかの議論に入ってほしい！要望です！

研究者、報道機関に対する期待

ジェフ：さて、もうそろそろ時間になりました。名残惜しいですが、これで活動は終わる訳ではないです。テレビ番組であれば「続く」。

けれども、終わる前に、最後の質問として最後に研究者、報道機関にアイヌの状況をよくするために期待することあるなら。

八重樫：実はこの研究会ですが、僕は終始居心地の悪い思いをしています。

私は伝承者ではなく、伝承者の子供ではない、名のないアイヌ、という立場でこの研究会に参加してきました。この名のないアイヌは学者や研究者が興味も関心も持たないアイヌです。そういうアイヌを代表して、参加してきました。それが今回のジェフの質問は、まるで枠にはめるような質問ばかりと感じていました。プロフィールにしても、何者でもない、単なる名のないウラカウンクル、と自己紹介しました。多くのアイヌは無視されて、活動していないアイヌはアイヌじゃない、みたいな扱いを受けています。

これは決して、志朗さんと次雄さんを辱めようとか、彼らの悪口を言うおとしているわけではないので誤解しないでほしいが、どのようなときにアイヌだと感じるかという質問にしても、志朗さんの父が茂さんだから犬を送る事が出来たのだろうし、次雄さんの父が辰二郎さんだからカムイノミができたのでしょう。そういう経験をできたのでしょう。しかし多くのアイヌの父や母は茂さんではないし、辰二郎さんでもありません。それどころか、アイヌブリの意味すら知らない人が多数ではないでしょうか。そういう線引きのされ方を、僕らアイヌがされてきたのです。研究者やメディアが注目しないのは、何も知らない、何もできないアイヌだから、仕方ないことであろうとは思います。しかし、それでも、そういう扱われ方をされることに、いらだつのです。

萱野：冒頭で言ったように、研究成果をきちんと社会に還元して欲しい。

八重樫：そうです。研究論文になるためにここに来ているのではないんだから。

デボ：アイヌ民族の出番を確固たるものにしたいです！が、研究者の主張がアイヌ民族の活動や方向性をコントロールしようと躍起になってるのも事実だろう！アイヌのためだと皆思ってるがＯＯＯ教授、ＯＯＯ教授やＯＯＯセンター長も同じ舞台に立つ以上相互扶助の関係を超えてはならないことを、アイヌと一緒に考えることが重要だ。

それにジェフは今、地方自治体の人々のことを言わなかったが、今政府の中で進んでいるアイヌ政策会議には期待している。地方自治体の職員とは良い関係を結べていると感じる。

ヘイトスピーチに抗して欲しい

萱野：研究倫理に則り、無理のない範囲で研究すること。報道機関は倫理規定を順守し、アイヌ民族に対するヘイトスピーチがあった場合は、毅然と対応して欲しい。

八重樫：「ザイヌ」　在日の人々はアイヌの利権にあずかろうとしているというデマを流しているね、ヘイトスピーチの人たち

萱野：２０１９年９月に札幌市白石区民会館で行った日本会議の講演のタイトルは「あなたもアイヌになれる？みんなでアイヌになろ

う?」であった。旭川市在住の医師が「科学的アイヌ民族否定論」を述べたようだ。このタイトルがヘイトスピーチに当たる、とされた。

葛野：札幌市はそういう人たちに場所を貸して。可笑しいね。

萱野：マスコミは、ヘイトスピーチには毅然と対応して欲しい。

北大にやって欲しい

ジェフ：このような会を続けていくべきだという風に受け止めたいです。とりあえず今日の座談会はここで終わりにしたいと思います。

萱野：この研究成果をジェフ研究室で、ホームページに公開するという方法はどうだろうか。

葛野：日本全国の人は見れるからさ。見せてもいい範囲で。

萱野：ジェフ研究室の研究成果について、それ程お金を使わずに外部への発表が可能になると思う。

八重樫：北大の学生に必修にアイヌのことをやらせるとかさ。納骨堂、コトニコタンを学生に見せるとかさ。北大で出来ることってあると思うんだよね。

萱野：納骨堂は北大の正式な地図に記載されていない、と聞いた。

八重樫：北大 icarpa のときに、人が通るとき、何をやっているこいつら、という感じで見ているんだね。なんかパフォーマンスやっているのか。

ジェフ：研究の今後のことを言うなら色々と皆さんがさっき言ったようなアイヌの状況を少しでも周知させるようなことに繋がることをしたいと思っているんです。（・・・）

萱野：北海道大学で修士あるいは博士論文で「アイヌをテーマにした」論文は全て検証し、徹底的にチェックする。事実確認や論文テーマの論点が正しいか否かを含めて。今まで誰もやっていないと思う。

デボ：とにかく、俺が一昨年から言っている研究プロジェクトを早く開始な！